

協働通心

令和 7 年 2 月

第 3 号

発行元

草津市教育委員会

生涯学習課

『協働通心』は、地域協働合校（小・中学校や地域で、社会の変化に対応するために、子どもと大人が世代を超えて知恵を出し合い、学び合い、協力して共に活動する取組）の活動状況を、広く市民の皆さんにお知らせする情報紙です。

今回は、矢倉小学校と笠縫東学区まちづくり協議会の取り組みについてお知らせします！



矢倉小学校「むかしのくらしを体験しよう」

矢倉小学校では、社会科の授業で学んだ昔の衣食住を実際に体験し、現在のくらしと比べることで、人々の生活の変化を知るという目的で、児童たちがむかしのくらしを体験する時間を設けています。

1月24日（金）はふるさと矢倉記憶絵の会の方7人と地域の方6人の方の協力のもと、むかしの居間・台所・寝室・衣類のブースに分かれて、3年生の児童が体験をしました。

体験した児童たちは、実物を見て多くの質問をしたり、使い方を学んで率先して実践する等、興味津々で体験していました。

児童たちからは「知っているものもあり色々教えてもらって楽しかった」、「良い経験になった、昔に戻りたい」という声があがりましたが、地域の方から昔は何事も時間がかかり不便であったことも聞くと、「じゃあ戻りたくない」と意見する場面も見られました。

実際に体験することで、むかしのくらしについてより理解を深めることができました。



笠縫東学区まちづくり協議会『みんなで遊ぼうさい』

1月25日（土）に草津市コミュニティ防災センターにおいて『みんなで遊ぼうさい』と題した防災体験が行われました。この体験には、幼児6人、小学生31人、大人21人の合計58人が参加しました。また、地域の方40人がこの体験をサポートするために参加していただきました。

体験前にNPO法人しがいち防災研究所の方が地震におけるリビングの危険個所について子どもたちに問いかけると、多くの手が挙がり積極的に発表していました。マイトイレ作りや心肺蘇生等の体験では、真剣な顔で講師の話を聞き取り組んでいました。体験の後は、笠縫東まちづくりセンターに移動し、炊出しのおにぎりや豚汁をいただきました。

保護者からは「イベントに参加でき子どもは喜んでいる。交流の場が広がり良い」「地域のことを知る良い機会となっている。災害がおこったとき家族を守らないといけないという漠然とした思いがあったが、具体的なことを知れて安心材料になった」等の意見がありました。子どもたちからも「体験が勉強になった」「豚汁おいしかった」という感想が聞かれ、楽しみながらしっかり防災の知識を得ることができました。



マイトイレ作り



身近な物で
応急手当



ペットボトルでCPR
(心肺蘇生)



ロープ結び



炊き出し